

のうね Nounet+ PLUS

人と地域をつなぐ情報誌

秋号

まちづくり通信
MAIL BOX

長畝子ども教室
in のうねの郷コミュニティセンター

おもしろサイエンスラボ

8月1日(金) 丸岡高校地域協働部×子ども科学講座！

丸岡高校地域協働部の生徒のみなさんが考案した「科学×食」の実験を、子どもたちと一緒に体験しました。この講座では、マシュマロを使った「食べられるスライム」作りや、ぶどうジュースを使った「カラフルパンケーキ」作りに挑戦。作って、食べて科学の不思議を身近に感じることができる楽しい時間となりました。

高校生たちのやさしい説明とサポートのおかげで、子どもたちも安心して参加でき、目を輝かせながら実験に取り組んでいました。食と科学が融合したユニークな体験に、子どもたちは興味津々！笑顔いっぱいの講座となりました。



夏のねりきり教室

8月5日(火) 和菓子作りで笑顔いっぱい！

今回の講座では、初めて参加する子どもたちも多く、始まる前は少し緊張した様子も見られましたが、教室が始まるとすぐに打ち解け、みんな集中して取り組むことができました。完成したねりきりは、それぞれ小さなショーウィンドウのようなケースに丁寧に納められ、さらに箱詰め。まるでお店で売られているような本格的な仕上がりに、子どもたちは笑顔で作品を持ち帰っていました。帰宅後、家族に誇らしげに披露している姿を想像すると、心がほっこりと温まります。子どもたちの成長と笑顔が輝いた、素敵なひとときとなりました。



第56回丸岡古城まつり 総踊り

「WE LOVE のうね！」の掛け声で、最優秀賞を受賞！

第56回丸岡古城まつりの総踊りには、長畝小学校の児童と保護者の皆さんが元気いっぱいに参加されました。のうねの郷づくり推進協議会のメンバーも応援にかけつけ、地域が一体となって祭りを盛り上げました。

「WE LOVE のうね！」の掛け声とともに、みんなで力を合わせて踊りきり、見事最優秀賞を受賞！子どもたちの笑顔と地域の絆が輝いた、感動のひとときとなりました。



編集後記

寒くなってきましたね。皆さんは最近始めたことありますか？
僕は、今年51歳になりましたが、49歳の時に会社の同僚に誘われてサッカーを始めました。本格的にやっているのではなく、たまに日曜日の朝に2時間程度練習したり、土曜日の夜に日東シンコースタジアムで2時間、知り合いの会社の同僚たちと交流試合をしている程度ですが、よくにとつてとても楽しい時間となっています。また、毎年古城マラソンに出場しているので、体力を維持するために時間があるときは夜にランニングをしています。
(T・N)

これから予定

- 11月29日(土) 長畝地区区長会納会
- 12月～1月末迄 味岡山イルミネーション点灯
- 12月20日(土) 長畝子ども教室 クリスマスケーキ作り
- 12月26日(金) 長畝子ども教室 ミニ門松づくり
※「長畝子ども教室」は小学生が対象です。
- 1月27日(火) 丸岡地区初区長会

CONTENTS

- ✓ 地域のおまつり特集
- ✓ 2025のうねの郷まつり
- ✓ TOPICS、歴史の場所を歩く③⑤
- ✓ 保健体育のじかん、Do you know.NE?

「のうねの郷だより Nounet+ 秋号」

令和7年11月12日発行

◆ 発行・のうねの郷づくり推進協議会 ◆ 編集・じょうほう部会

〒910-0224 福井県坂井市丸岡町/ヶ郷24-9

TEL・FAX / 0776-66-7446 E-mail / noune-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

伝統と絆をつなぐ

里丸岡地区

里丸岡地区の夏祭りは青壮年会が主となり、「子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる」をコンセプトとして令和元年から開催を始め、現在は地域住民同士の親睦を深める行事として親しまれています。顔を合わす場や話すきっかけも少なく疎遠になりがちな状況も、少しずつ緩和しているように感じています。

今後も恒例行事として継続し、里丸岡地区の活性化につなげていきたいと考えています。

(里丸岡地区区長 多田和崇)



坪江地区

本年度の坪江地区夏祭りは、8月10日(日)午後5時から8時まで集落センターにて行いました。

事前に参加人数分のお弁当は用意し、当日は区内の各種団体で役割分担をし、そうめん・焼き鳥・フランクフルト・かき氷・飲み物等の準備から提供までを対応していただきました。

集落センター内の飲食スペースでは、プロジェクトを使用して昨年の夏祭りの様子を観賞する場を設けました。最後に余興として、ビンゴ大会も行いました。

(坪江地区区長 江川真介)



松山地区

コロナ禍を経て、5年ぶりに区民が集まるイベントとして『松川ふれあいマルシェ』を開催しました。初めての試みや、形を変えての開催ということもあり、準備には苦労もありましたが、当日は「楽しかった!」「久しぶり!」と笑顔で話す参加者の姿が見られ、開催して本当によかったと感じています。

これからも、こうした「ふれあいの場」を大切にしていきたいと思っています。ご協力いただいた実行委員の皆さん、本当にありがとうございました!

(松川地区区長 西出智二)



山久保地区

山久保地区には古くから「谷の奥(たんのく)まつり」と呼ばれる祭りがあります。集落の東方、高速道路の高架橋を渡り、80mほど行くと「谷の奥神社」と呼ばれる祠堂があり、毎年8月に行われる村の農道草刈りの後、皆でお参りしています。一説には継体天皇と所縁のある祠とも云われていますが、安置されている神様(石柱)に「○○:○尼」と彫られていることから、祀られているのは女性であるようです。

(山久保地区区長 牧野行治)



畑中地区

3月18日(火)第3火曜・神社春季祭礼
9月18日(木)第3木曜・神社秋季祭礼

春・秋の祭礼は、共に各家庭1名が神社に集まり、区内の神主により神事が行われます。

神棚にお供えをし、祈りを捧げます。その後、皆で酒を飲み交わし語り合い、終了となります。

神事の前日・翌日には、準備・後片付けも行います。

(畑中地区まちづくり推進員 稲葉宗典)



女形谷地区

女形谷地区は区民交流イベントを毎年9月に開催しています(今年は休止)。焼き鳥や焼き芋・生ビールなどの模擬店の他、ストラックアウトや輪投げといった全世代が楽しめるゲームに加え、餅つきなども行います。

また、区民の集まるこの機会に、防災意識の向上促進をねらった災害時のアイデア料理(蒸しパン等)の実習や、模擬消火器を使った初期消火活動の体験会等も実施し、区民の交流の輪を広げる、楽しいイベントとなっています。

(女形谷地区まちづくり推進員 田村博幸)

地域のおまつり特集

2025 のうね の郷まつり

のうねの郷まつりを9月28日(日)に霞の郷で開催しました。保育園児や小学生の発表、餅つきの実演販売の模擬店などで大いに賑わいました。イブニングコンサートでは、地元音楽家による演奏が会場に響き渡り、最後は恒例の花火が夜空を彩りました。

にぎわい広場



オープニングセレモニー



触れ太鼓「さおとめ太鼓」



つぼみ保育園発表



長畝小学校2年生発表



展示スペース



コミセンサークル生によるステージ発表



フラグループマカナミ



オカリナサークルのうね

イブニングコンサート



吉塚道場 丸岡教室



のぞみ歌謡クラブ



ナイトショー「ドッカン！打ち上げ花火」



新米すくい



フラワーアレンジメント体験コーナー

Topics

2025 いこっさ あおっさ やろっさ

5/25(日)、あいにくの雨となりましたが、長畝小学校の体育館は多くの笑顔であふれました。幕開けとなる競技は「詰め放題」。子どもはお菓子を、大人は野菜を詰め放題で、大盛況。その後のブロック対抗競技では、大縄跳びや段ボールリレーで白熱した戦いが繰り広げられ、会場全体が一体感に包まれました。来年も、さらに多くの方が楽しめる行事にしていきたいと思います。

ご協力いただいた長畝小学校の先生、各地区区長、体育委員の皆さまには心より感謝申し上げます。

(のうね体育協会会長 尾嶋清治)



のうねっ子見守り隊 研修会

6/13(金)、長畝小学校児童の登下校時の見守り活動をしている「のうねっ子見守り隊」の研修会を実施しました。はじめに、齋藤雅実校長より、日頃の見守り活動への感謝の言葉をいただきました。その後、坂井警察署交通課職員から、県のスローガン「横断歩道で歩行者を守る」を中心に、交通安全の講話が行われました。参加者は、子どもたちの安全を守るために改めて意識を高め、今後の活動に活かしていく決意を新たにしました。

(あんしん・ふくし部会会長 村中祐人)



インスタで情報発信中

コミセンの日常
郷協の行事
長畝地区のあれこれ…

いいね♡フォロー
おねがいしま〜す



のうねコミセン



のうね第2コミセン

長畝地区区長会 視察研修

3/22(土)に、被災地輪島市町野町を訪問しての防災研修会に続き、6/21(土)には、岐阜県本巣市の根尾谷地震断層観察館を視察しました。明治24年に発生した濃尾大地震は世界最大級の内陸直下型地震(マグニチュード8.0)で、震源地であったこの地域では最大で垂直に6mに上下する断層が生じました。観察館はこの断層部分を自然展示しており、改めて地震の恐ろしさを知ることができました。学芸員の方の丁寧な説明も勉強になり、今後の地域防災に役立てていきたいです。

(長畝地区区長会長 牧野行治)



第17回のうね地区ラジオ体操の会

7/19(土)、夏休みのはじまりを告げるラジオ体操の会が長畝地区で開かれました。青空の下、グラウンドには子どもたちの元気な声と笑顔があふれ、保護者や地域の方々も一緒に体を動かしました。中田成裕さんの指導のもと、軽快な音楽に合わせてウォーミングアップ。体操の後は坂井市交通安全協会からの講話があり、皆で安全を願いました。終了後には花火や交通安全グッズが配られ、地域の絆を感じるさわやかな朝となりました。

(ふれあい部会会長 尾嶋清治)



いこい祭り in 味岡山

天候不順で8/24(日)に延期となった味岡山の「いこい祭り」でしたが、当日には多くの家族連れが集まり、笑顔いっぱいの日となりました。子どもたちは元気にゲームや流しそうめん、バーベキュー、スイカ割りなどを楽しみ、山の中ににぎやかな声が響きました。かんきょう部会員の協力で、古くなっていた木製のテーブルやベンチも新しく生まれ変わり、あたたかい交流の場になりました。来年もぜひ、味岡山の楽しい時間を過ごしましょう。

(かんきょう部会会長 前田繁)





健康運動指導士
半澤 清江

じーっとしていると きょえちゃんに叱られるヨ のうねコミセン保健體育のじかん

お風呂で体温を上げて、元気な体づくり

みなさんの平熱は、37℃前後ありますか？ 近年、体温が高めの人ほど、病気にかかりにくいと言われていいます。例えば、がん細胞は深夜など深部体温が下がっている時に増えやすく、逆に42.5℃以上になると死滅することが分かっています。日頃から体温を保つことが大切なんですね。

今回は、感染症予防としての入浴についてお話します。風邪などの感染症にかかったとき、私たちの体は「異物が入ったぞ!」と熱を上げて(ヒート)、免疫細胞(プロテイン細胞)を活性化(ショックを与える)させます。でも、寒い季節は、外気にさらされた皮膚から体の奥の深部体温を下げてしまい、体温が低くなることで免疫力が落ちてしまいます。そこでおすすめなのが、体温アップ免疫活性入浴方法。入浴でしっかり体を温めることで、睡眠中に細胞たちが元気に働いてくれる環境を整えてあげる作戦です。

入浴環境のポイント

- 湯温は41℃で10分間入浴(合計タイム10分でもOK)、疲労回復なら40℃15分間
 - 肩までしっかり浸かることで、深部体温が1.0～1.2℃上昇します。
 - 入浴剤(炭酸ガス)の活用で、さらに回復力アップ。
 - 水分補給や、水分の持込みもおススメ。
- (因みに私は、炭酸水かミネラル豊富な硬水を持ち込んでいます。)



天然の炭酸泉

体温が上がると、一酸化窒素(NO)が分泌され血管を拡げてくれます。より多くの栄養が免疫細胞に届くことで、免疫力、回復力がアップするのです。また、熱の刺激により、細胞を守ってくれる「ヒートショックプロテイン(HSP)」という、たんぱく質が生まれます。HSPは、傷ついた細胞を助けたり、がん細胞をやっつけるナチュラルキラー(NK)細胞を増やしてくれる、頼もしい味方です。これらの仕組みが、感染症を予防する免疫細胞活性のための入浴方法です。また、入浴後には、体温がゆっくり下がっていくことで(約90分後)、自然な眠気が訪れ、質の良い眠りに入るのですが、この眠っている間に、はたらく細胞たちが、せっせと明日の元気を準備してくれているのです。

心もほくれるお風呂時間

日本は水に恵まれた国。陰陽五行では「水」は「陰」、つまり目に見えない精神性を表し心の浄化に繋がります。お湯に包まれることで精神的な安心感が得られるのです。何事も「過ぎたるは猶及ばざるが如し」。無理せず、ご自身の心地よい温度と時間で楽しんで下さいね。「いい湯だなあ」と感じるそのひとときが、あなたの健康をそっと支えてくれますように。

もっと詳しく知りたい方は、11/12発行広報誌さかい春江図書館開催講座案内をご覧ください。
健康運動指導士 半澤清江



ドイツ:温泉療法施設にて

Do you
know.NE?

の〜ね!

読み聞かせボランティア 「おはなしでてこい ぐー・ちょき・ぱー」

毎週金曜日の朝、長畝小学校の教室から、やさしい声と子どもたちの笑い声が聞こえてきます。それは、保護者を中心に活動する読み聞かせボランティア「おはなしでてこい ぐー・ちょき・ぱー」の皆さんの声です。

同団体は平成15年に発足し、現在11名のメンバーが活動しています。毎週金曜日、長畝小学校で児童に絵本の読み聞かせを行っています。

同団体では、メンバーを募集。絵本が好きな方、子どもたちと楽しい時間を過ごしたい方、一緒に活動してみませんか。

お問い合わせ先 長畝小学校(担当:古川) TEL 66-0322



歴史の場所を歩く【第35回】

あさみわたる 浅海渡が造った「竹田川の平岩堰」

ひらいわせき

竹田川の川上区から坪江区

にかけての途中に、「平岩堰」がある。川を横断して水位を嵩上げする高さ2メートルほどの堰で、坪江区・乗兼区、そして金津町瓜生区の3区の田地の農業用水として利用されている。近くにこの堰の由緒について説明した石碑が建っている。それによると、以前この地区は竹田川の扇状地で、夏になると干ばつの被害に苦しんでいた。平岩堰が築かれたお陰で竹田川の水が安定して供給されるようになり、農業生産は次第に軌道に乗っていったとされる。

この堰は江戸時代末の慶応元年(1865年)に丸岡藩

用水奉行だった浅海渡の発議

によって、坪江・乗兼・瓜生の3区の村人が右岸の石盤を穿って水路を掘り、慶応2年2月に完成させた。工事費は丸岡藩が8割、残りの2割を地元が負担し、工事は地元の人たちの人足で請負い2年がかりで完成されたそうだ。水路は坪江区の山裾に沿って作られており、最初の100メートルほどは右岸の石盤を掘り割った水路で、当時はまだダイナマイトも未開発の時代であり、すべて人力で行う大変な工事だったようだ。この水路の完成により、坪江・乗兼、瓜生3区の20町歩の田地に水が行き渡る

ようになり、「お陰で白いご飯がいただける」と喜び合ったそうだ。時は江戸から明治に移る激動の時代で、地方にあつてこのような公共的な事業を成し遂げた浅海渡氏は、まさに偉人といえるだろう。

その功績を称え、3区の村人は明治25年に記念碑を建立した。この石碑は現在も平岩の道路脇に残されており、地域の歴史を静かに語り続けている。

浅海氏の菩提寺は丸岡の台雲寺で、寺には明治時代の浅海一族の家族存在が記録されている。また、近年まで命日である7月8日に、3区合同で浅海渡氏の遺徳を偲ぶ法要

を台雲寺で行っていた。

補足情報

川上区の竹田川・釜が淵左岸には、山久保・上長畝の田地を潤すための取水口があり、これらを含めて「五

領用水組合」が組織されている。川上橋のたもとには、最後の丸岡藩主・有馬純文氏が起草した五領用水組合結成の記念碑も建立されている。

(文責:水崎亮博)

